

そなえあれば
うれいなし

西淀 防災 Times

Vol. 3 令和4年6月30日発行

教員実働訓練へのご参加ありがとうございました。

4月11日(月)、教員実働訓練にご参加いただきありがとうございました。体育館での振り返りでは、自分にはなかった視点等、子どもたちを守りぬくことへのそれぞれの考え方を共有できたかと思います。

振り返り後の各学年単位での反省をお寄せいただきましたので、それぞれ検討してまいりたいと思います。

西淀工場での階段介助

- ・西淀工場の階段が急だったので、子どもを抱いて上るのが危なく感じた。
- ・どんな状況であれ、とにかく子どもを先に上げる。これを最優先にして、バギーや車いすは子どもをあげてから、余裕があれば上げる、ということの基本にした方が良くと思います。とにかく命が最優先。最悪バギーや車椅子がなくても生き残ることが一番大切なのではないでしょうか。
- ・バギーを上げる時は、同じくらいの身長 of 教員でペアを組むと運びやすいと思った。

避難先

- ・2階、3階フロアがかなり暑く、空調も使えないと思うので夏場などは熱中症が心配である。
- マット等もひけない状況下で車椅子から降ろすのは衛生的に大丈夫なのかと思いました。
- 避難先の環境につきましては、児童生徒にとって体調を第一に、健康を損なわないように避難グッズ等の活用で環境の保全に努めていきます。

避難先まで道のり

独歩生徒が2人いるが、地震がおこるとパニックになって動かない可能性があるので、教師の介助が必要になる可能性がある。

- ・車いすを押して通るには道幅狭いなと感じました。その他反省会で先生方がおっしゃっていたことや気づきなど、多くの目線からの意見も聞くことができ、大変勉強になりました。
- 千船病院に行く経路が本当に安全なのでしょうか。台風で緑道の木が倒れて通行不能になっていたことを鑑みると、別の経路の検討も必須だと思いました。あと、単純に千船に行くまでに津波が来ないか心配です。
- ・グラウンドに集まって、要救助者を待たずに先に順番に子どもを避難させた方が良くように感じた。

用具の使用法

- ・担架の使用法がわからないことに気がついた。
 - ・大きめの担架を複数用意しておいたほうがいいのかも。
 - ・担架が小さく、足を曲げてはみ出たため足を負傷した際に危険だと思った。
 - ・非常用の担架を活用して、西淀工場をのぼれないか。女性でも登れるのではと思った。
 - ・ヘルメットのかぶり方、無線や担架の使用法などを初めて知ったので良かった。普段からすぐ動けるように試していないといけないと思った。
 - ・バッテリーは平時から利用して、いざというときにスムーズな使用と、非常時にバッテリーを最適な状態で使用することができる。
 - ・拡声器の音が聞こえない。
- 用具をふだんから使えるように夏休み中には、その機会を設ける予定です。

想定と避難時のあれこれ

- ・水を配る必要があるか。
 - ・防災袋受け渡し場所は、校舎が崩れる想定も加味し、校舎から離れた場所で行う方が良い。
 - ・移動教室で地震が起きた時に近くに車椅子がないので座位保持から車いすの移乗をどうするかを考える必要があると感じた。
 - ・西淀工場までの経路を変更して訓練をおこなってはどうか。(複数)
- 各列が揃っても立っていたので揃った時点で全員座るなどするとどの班が揃ったのかわかりやすいのでは？と感じました。
- ・全員を安心させるために、グラウンドでも、「今何を行っているのか」をアナウンスする。
 - ・今回であれば、月曜日14:00人員は本日の教師、児童生徒の出欠で想定と、具体的にすると多くの先生が想定しやすいと思います。全員出席では非現実的。
 - ・想定を曖昧にしているところがあり、実際に取り組んでいて戸惑うこともあった。それぞれの係でどんな対応をしていくのか、職員室で招集する担外の教員はどの学年のヘルプに入るのか、事前に決めておいて周知すべきではないかと思った。
 - ・役割分担はいろんな人に体験してもらった方が良くと思うので前年と変えるようにしてほしい。
 - ・ヘルメット教員分の購入、バッテリーの平時からの使用。
 - ・避難場所が使えない場合、避難場所はありますか？
- 津波の場合は学校隣接の大和田第三住宅の高層階に逃げる方法もありますが、屋内ではないので、冬季や夜間を過ごすことは難しいため、さらに避難が必要になります。

実際に地震が起こったら

実際に災害が起きたときの役割分担はどうするのかを検討し周知してほしい。

→経路安全確認や校内救助隊の方は変わるかもしれませんが、可能な限り今回の訓練で受け持ったそれぞれの役割を担っていただきます。防犯防災計画の現行版をすみやかに発行するとともに役割分担も明確にできればと考えます。

検討課題

・防空頭巾は使用しませんか？

→子どもたちの安全をどう守るか。教員同様ヘルメットを用意するのがよいか等検討し保護者の協力を得て、なんらかの方法が構築できればと考えています。学校によっては、児童生徒負担でヘルメットを用意しているところもあるようです。

いただきまして、提案・改善点は、次の訓練に活かすことができるように、健康教育部並びにPTにて検討を深めます。

津波の到達時間と避難

南海トラフ地震の場合は地震発生から1時間以上といわれています。しかし、和歌山県南部では3分で第一波が来ると言われています。地震の規模や発生場所によっては数分で被害が表れることも考えられます。淀川等の堤防決壊や液状化現象などがあれば、出水により避難できなくなる可能性もありますので、すみやかな避難が必要です。津波のメカニズムと対策を知り、来るべき日に備えましょう。

◎ 8月3日(水) 津波・高潮ステーションの見学者を募っています。

かつて大阪を襲った津波について、また大阪を襲うとされている東南海地震等についての知識を深めることができるとともに、今できることはなにかを学ぶことができます。ぜひこの機会に見学のほど。

(日程が合わない方もお時間ありますときに、ぜひご見学ください)

津波・高潮ステーション:大阪市西区江之子島 2-1-64

(大阪メトロ阿波座駅 徒歩2分 10:00-16:00 入館無料(火・土・年末年始休館))